

香川県三豊市（国内 25 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要（令和 2 年 12 月 14 日実施）

令和 2 年 12 月 14 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、5 例目及び 7 例目農場から約 700m 離れた丘陵部の中腹に位置し、付近は竹林や田畑に囲まれている。
- ② 農場の周囲には複数のため池があり、約 100m の離れた位置に河川がある。
- ③ 当該農場には育雛舎 1 棟、成鶏舎 4 棟で計 5 棟のウィンドレス鶏舎があり、発生鶏舎は、農場入口の手前側に位置する 2 階建て成鶏舎の 2 階部分であった。発生時には成鶏舎 2 棟、育雛舎 1 棟で採卵種鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 管理人によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は、12 月 1 日から 12 日まで 1~4 羽程度で推移していた。その間、死亡鶏は鶏舎内に散在し、まとめて複数羽が死亡することはほとんどなかったとのこと。
- ② 管理人によると、12 月 13 日に 5 羽の死亡鶏が隣接する複数ケージでまとめて確認されたことから家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 管理人によると、12 月 13 日の死亡鶏は、4 列あるケージのうち、入口から見て左から 2 列目の鶏舎入口側でまとめて確認されたとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では 6 名の従業員が専属で管理を行っており、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏の回収を行っていた。
- ② 管理人によると、基本的には鶏舎毎に担当の従業員が決まっているとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 管理人によると、従業員は農場専用の作業着、手袋及び長靴を使用していた。また、鶏舎毎に長靴、手袋の交換を実施していたとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 飼養鶏への給与水は、水道水がいったん農場内の貯水タンクに貯蔵され、パイプによって各鶏舎に供給されている。
- ④ 管理人によると、鶏糞は除糞ベルトで鶏舎外へ搬出し、一時保管場所に堆積しているとのこと。一時保管場所には屋根が設置されているが、防鳥ネットは設置されておらず、堆積した鶏糞をブルーシート等で覆ったりはしていないとのこと。堆積した鶏糞は定期的に系列農場に運搬し、系列農場内の鶏糞処理設備で堆肥化しており、直近の搬出は 11 月中とのこと。
- ⑤ 管理人によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、袋に入れて系列農場の死鳥処理装置にて処理しているとのこと。なお、当該農場及び系列農場の入退場時には車両消毒を実施していたとのこと。
- ⑥ 管理人によると、発生鶏舎を含む全鶏舎は、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。
- ⑦ 管理人によると、普段から農場及び鶏舎入口に消石灰散布を行っているとのこと。
- ⑧ 管理人によると、車両が農場敷地内に入出入りする際、入口に設置された動力噴霧器による消毒を行っているとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎の鶏舎構造は、鶏舎奥側の壁面に設置された換気扇から排気し、入口側の

壁面に設置されたフィルターから入気するタイプの鶏舎であった。換気扇の外側には開閉可能な板が設置されており、換気扇が停止する際にはこの板が閉まる。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 除糞ベルトの開口部は停止時には袋で塞がれていたが、一部隙間が認められ、小型の野生動物が侵入可能と考えられた。
- ② 管理人によると、鶏舎と集卵室を繋ぐバーコンベアの開口部は停止時には板で塞いでいるとのこと。
- ③ 管理人によると、発生鶏舎内でネズミの痕跡を見かけることがあり、定期的にネズミ対策（殺鼠剤の設置）を行っているとのこと。農場内ではカラスやスズメ、メジロが確認されることがあるとのこと。